

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500264		
法人名	医療法人 仁照会		
事業所名	グループホーム とさの森		
所在地	土佐市高岡町甲931-5		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

土佐市旧市街地、国道から少し北に入った所の古民家を改造した、自分の家で生活しているような気分になれるホームです。車椅子の方も、元気な方に押しいただき、毎日のように通路や、国道を散歩しています。直ぐ隣には業務用スーパーがあり、買い物にはとても便利です。そちらへも一緒に出かけます。そこには顔見知りの知人が買い物に来ていたり、店員さんから良く話かけてくれたり、すると嬉しくなり元気な声で挨拶して帰ってきます。又、お天気の良い日は、ほぼ毎日庭に出て、レクリエーションや日光浴、昼食をしたり、小さいですが前の畑を耕し季節の野菜を植えて楽しんでます。春にはフキが良く摂れました。皆で日光浴をしながらフキの皮をはいで昼ご飯や、夕食で食べました。庭で摂れたお芋や、エンドウや玉葱は、ご近所の方や、ご家族の方にもおすそ分けしています。狭いながらも楽しいアットホームな我が家です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&jizyosavoCd=3970500264-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年12月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、古民家を改修・増築した建物であり、開設後11年が経過するなかで近隣住民が気楽に訪問しており、利用者はほぼ毎日出かける散歩や近くのスーパーへの買い物の際に、顔見知りの住民と挨拶したり声を掛けられるなど、地域に根差した事業所になっている。

ケアにおいては、散歩やレクリエーションを通じて下肢筋力が低下しないように取り組み、入居前まで培ってきた裁縫や調理等の経験を活かす支援を心がけ、また介護計画にも反映させながら生活能力の維持を図っている。

管理者は、職員の資質向上のために運営法人や外部機関が開催する研修への参加を促し、職員は研修へ参加したり勉強会を通じて認知症や身体拘束の弊害等への理解を深めている。民家改修の建物のため、手狭な共用空間であるが、職員は利用者に見え届き、毎朝の理念の唱和には、利用者も自然に和するなど職員と利用者が身内のような親近感のある暮らしを営んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、誰が見てもすぐ分かるような所に掲げ、申し送りの後や職場会で共有し、意識を統一して毎日の実践につなげている。	利用者の心の平和を守るという法人共通の理念をもとに、職員全員で話し合い「命きらきら、心のびのび、身体いきいき」というケア理念を作成し、毎朝居間で唱和することで利用者にも浸透し、毎月の勉強会やケアの拠り所としながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣がスーパーで週に1~2回は買い物に出かけたり、毎日の散歩中には地域の方や知人の方から声を掛けて頂いたり、敬老会には全員で参加したり、地域の祭りに参加し、運営推進会議などに参加して頂きながら交流を図っている。	地区や小学校の運動会の見学に行ったり、敬老会に参加して地域住民と交流する一方で、日常的に知人や、近隣住民の訪問もある。2軒隣のスーパーにも散歩を兼ねて出かけ、顔見知りの人と挨拶や会話を交わすなど、利用者が地域に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や運営推進会議には案内状を配り、ご家族や白寿会会長さんや、知見(民生員)さんに参加して頂きながら、地域の人々に理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には研修に参加した事やホームの取り組み等を報告し、白寿会会長さんや、民生委員、市の職員の方に助言を頂きながらサービスの向上に向けて活かしている。	会議では、利用者の状況報告、毎月の取り組み目標と結果や研修等の活動報告について意見交換を行い、意見や助言を運営に反映している。会議は居間で開催して利用者が同席し、利用者にも意見を聞くようにしている。議事録は詳しく記載しており、家族の出席を増やすため、日曜日の開催を行政に相談している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所や、社会福祉協議会の方は定期的にホームに来てくださったり、運営推進会議には毎回市の職員さんが参加して下さり、ホームの取り組みや研修会の報告や利用者さんの相談をしたり、入居者さんの紹介等を頂いている。	地域包括支援センターには利用状況を報告し、入居に関する連携を取っている。市担当課には事故報告や、運営推進会議の議事録等、提出物があれば持参して、相談しやすい関係を築いている。市と共にグループホーム連絡会の再開も検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の研修会を開催するなどし、全ての職員が、身体拘束をしない取り組みを行っている。又、玄関等は何時でも誰でも出入り出来るようになっている。	法人主催の研修会に出席し、身体拘束に関する事例をもとに全事業所で話し合っている。研修会は全員参加を基本とし、可能な利用者も一緒に参加して、互いに尊厳を守る意識づけをしている。ケアでは強い声かけをしないよう気を付け、不穩による外出には原因を見極めながら、職員が同行するなど拘束のないケアを実践している。家族にもケア方針を説明し、理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加者は、運営推進会議や月例会等に発表し、勉強会を持ち全員で虐待防止について、学ぶ機会を持てるようにしている。また、そういった勉強会などで、意見交換の場を持ち、虐待が見過ごされていないか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修会に参加し理解をしており、必要な関係者と話し合い、必要な方は活用されている。また定期的に社会福祉協議会の方が来られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時、契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点を聞き、理解して頂き、納得されたうえで入居されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応の研修後には、運営推進会議の時に報告させていただき、ご家族からも意見等を聞くようにしている。玄関には意見箱を設置し、意見や要望などを聞けるようにしている。	利用者には日頃のケアや運営推進会議の機会に意見を聞き、家族には面会時に時間を取って意見を聞くように努めている。月1回の事業所便りで利用者の近況を知らせ、家族とのコミュニケーションに努力しているが、運営面での意見は聞けていない。	家族の関心を引くイベント等を検討して、家族がより多く事業所に集まれる機会を作り、家族同士で話し合う場を設定して、率直に意見が言える環境作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例会では職員の意見や、提案も課題として取り上げ、法人と管理者はホームや利用者、職員の様子を報告して反映させている。	職員からは日常のケア場面で意見を聞くほか、法人役員も出席する月例会で職員全員から意見を聞くようにしている。職員の意見は日々本部へ報告し、本部の定例会で検討して運営に反映している。職員からは設備改善やケア方法等の意見・提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自分で評価する自己チェック表を活用し、向上に心掛けるようにしている。又、勤務表は個々の要望や事情にあった勤務時間になるように考慮し、各自が向上心を持って働きやすいように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内は職員に分かりやすい所に掲示しており、職員に合った研修会を受講するよう勧めている。また勤務時間を考慮し、参加しやすいように配慮している。その後、毎月の月例会や運営推進会議等に発表して頂き、トレーニング出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームよりお誘いを頂き、意見交換をし交流を図っている。又、県や市の開催する研修会などにも参加し、毎月の月例会や、運営推進会議等で、困難な事例や取り組みを発表してサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人や、ご家族の希望や意見、不安等の情報を聞き、サービス提供票に反映させている。また、ご家族がホームに来られたときや、電話などで連絡を取り合いながら、安心して生活が送れるような関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人やご家族が困っている事や、不安に思っている事、要望などは十分聞き、入居の目的等を聞き、安心して生活が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人が今困っている事、不安に思っている事や要望、意向等を聞き、今一番必要としている事を見極めながら、他のサービスも視野に入れつつ、ホーム入居でよいのか検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の生活歴を踏まえながら、大先輩の方々から様々なことを教えて頂きながら、双方で協力しあう関係を築いている。またその中で、個人との信頼関係が深まるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が面会に来て頂いた時は、アドバイスを頂いたり、ご協力をお願いしたり、職員の知らないことを教えていただいたり、ご家族と共に支援できるように努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近くのスーパーに買い物に行ったり、地域の運動会や敬老会等には出来る限り参加して、地元の人と交流が出来るように努めている。</p>	<p>入居時のアセスメントで生活歴を聞きながら、馴染みの人や場所を把握し、外出の折に関係継続の支援に活かしている。近隣スーパーや、地区敬老会で知人に会えば会話を支援し、利用者宅の近所の人への訪問があれば、話しやすい雰囲気づくりを心がけ関係が途切れないようにしている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日々の生活の中から利用者さん同士のふれ合いを観察し、散歩に一緒に出かけたり、座る席等を考慮し、良い関係が出来るように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も電話や、イベントの案内状を出したり、季節の手紙を出し交流が出来るように努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の会話の中で、本人とコミュニケーションを取りながら、意向や要望、思いを聞き入れるようにしている。困難な場合は、その方だったらどうだろうか、と考えるようにしている。</p>	<p>毎日の散歩や日光浴、その他のケアの時に、1対1で時間をかけて思いを聞き取っている。新たに把握できたことがあれば申し送りし、個人記録にも記載するよう努めているが、行動記録が主体で、利用者の思いや希望の記載が少ない。意思伝達が困難な利用者には、話し掛けた時の表情等から汲み取っている。</p>	<p>利用者への傾聴で聞き取った内容を、個人記録へ記載し、またフェイスシートへも追記することで職員全員で共有しやすく、その人らしいケアに反映することを期待したい。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前には、十分な聞き取りを行い、家庭関係や生活歴、趣味などの情報をいただき、サービスの利用に至るまでの経過の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、その日その日の個々の心身の状態を把握しながら、出来る事を見極めながら、その人らしい生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向等を聞きながら、スタッフ間で話し合い、意見交換しながら検討し、介護計画書を作成している。	本人や家族の意向、業務日誌、アセスメント内容等をもとに、訪問看護師が来所可能な日にカンファレンスを行い、職員が意見を出し合っ、介護計画を作成している。計画は本人の希望に沿い、実践可能で本人の喜びが得られることを心がけ、3カ月ごとに見直すとともに、状態変化に伴う追加項目等を随時検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケアで、その日に合った内容等を記録し、朝夕の申し送り情報交換を行っている。また、状況の変化があれば、早めに話し合いをし、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、受診時の付き添いや散髪や買い物等、スタッフが同行したり、その時々に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や小学校からは体育祭の案内をいただき見学に行き、敬老会には全員で参加している。同業者との交流も持ちながら、地域と触れ合いながら、生活を楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には、ご家族と相談して、かかりつけ医を決められている。家族が同行する場合は、ホームから情報を提供し、出来ない時はスタッフが同行し、受診後にご家族に報告をしている。	入居時に利用者・家族にかかりつけ医の意向を聞き、希望する医療機関で受診している。かかりつけ医が協力医の場合は、週1回の通院又は訪問診療が行われ、通院には家族又は職員が同行している。家族による通院時は、いずれも事業所から家族に情報提供し、家族から結果報告を受け、記録して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックで日々の生活変化に気をつけ、体調に変化があれば相談したり、週に一回の訪問看護に来た時は、情報を交換しながら、指導を受けたり、受診に適切なアドバイスを頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行し、ご家族の了承のもと、病院からの情報を教えてもらったり、こちらの情報を提供し、早期退院につながるように情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には説明をしているが、体調が崩れ変化した時は、かかりつけ医と家族、スタッフが十分話し合いを持ち、何度かにわたり、ご家族の意思を確認しながら、今後の方針についてチームで取り組み、支援を行っている。	重度化の指針に基づき入居時に家族等に説明し、重度化の傾向が見られたときは主治医、訪問看護師、家族、職員で話し合いを重ね、家族等の希望に沿った終末期の対応をしている。開設以来、事業所で10例以上の看取りがあり、新規職員は看取りの研修を受けるなど、医療連携のもとで体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年2回の救急救命講習には、全職員が参加し、心肺蘇生や救急処置等の訓練を行っており何時でもすぐ対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際の注意事項などをもとに、検討会を行い、次の訓練に生かしている。又、独自の通報訓練も行っており、地域の方や民生委員さんに協力して頂き、夜間、日中を想定した訓練を行っている。近隣の事業所や民生委員さんの協力をお願いしている。	消防署の協力も得ながら、防火訓練を年2回実施している。訓練は運営推進会議の日に実施し、利用者も参加して建物前の庭に避難し、近所の住民や近隣会社の協力もある。また、防災マニュアルに沿って、夜間想定訓練も実施し、家具の転倒防止や、座布団を防災頭巾にする工夫もしているが、食料等の備蓄量が少ない。	非常用食料・水等の備蓄は、県の防災パンフレット等を参考に、3日分以上の量を確保することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であるという事を忘れず、誇りを傷つけないように、他者に気付かれないようにさりげなく声掛けするなど注意している。	利用者が培ってきた得意な技術や知識をケアに活かすことで、本人の人格の尊重につなげ、日々のケアでは穏やかな言葉遣いを心がけて、利用者の尊厳を守っている。トイレの閉鎖は確実にし、羞恥を感じる介護場面では他の注意を引かないようプライバシーに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から一方的ではなく、選択肢のある声掛けを行い、本人が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の作業など、個々のその日の状況を見極めながら、本人の希望や意思を確認しつつ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの季節になると家族と買い物に行ったり、季節に応じた装いが出来るように支援している。また、お出かけの際には、お化粧をしたり、着ていく服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じた食材の形や堅さを考慮しながら、利用者と職員と一緒に準備や片付けなどを行っている。	毎日職員が交代して、利用者の嗜好等に配慮しながらその日の献立を決めている。献立内容は定期的に本部の栄養士の点検・評価を受けている。高齢化が進み、食器洗い、調理等を手伝える利用者は減少しているが、食事を楽しくするために、気候の良いときは、ほぼ毎日昼食を庭で取るなど環境や雰囲気を変える工夫をしている。	日々献立を作成する職員が交代することから、内容が重複する可能性があり、それを避けるために調理済の献立一覧表を作成して一目でわかるようにし、その都度確認することを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は一人ひとりの状態で異なるが、医師の指示や栄養士の指導により、本人に合ったものになるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず歯ブラシを使い、歯や舌を洗っている。又、入れ歯の方は夜間ポリドントを使用して口腔内を清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活の中で、個々の排泄パターンを見極めながら声掛けや誘導を行っている。	排泄記録等から、利用者一人一人の排泄パターンを把握して、時間に留意しながら個別支援をしている。尿意を感じて自発的にトイレに行ける利用者は見守り、紙おむつ使用の利用者には可能な限りトイレへ誘導して、機能維持を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩後身体を動かす事で水分補給したり、起床時等冷水や牛乳などを飲んで頂き、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節によって入浴時間を調整したり、一人ひとりのタイミングに合わせて声を掛けている。	入浴時間は午前を設定しているが、入浴担当者を決め、希望や必要に応じて、いつでも入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者には、時間をおいて気分転換を図り、少なくとも週1～2回は入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前と午後にはそれぞれ違ったレクリエーションや、筋力リハビリ体操で身体を動かしたり、昼食後には一人ひとり個々に応じて休憩をとられたり、テレビを観たりと生活のスタイルが出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧は台帳に保管し、副作用についても確認できるようになっている。症状が変化した時は訪問看護師に連絡したり、医師とは何時でも連絡がとれるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内の行事で外出の機会を多く持ち、毎日の散歩や買い物、庭で食べる昼食で気分転換を図りながら楽しみを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1～2ヶ月に一度はご家族と買い物に出かけたり、理美容へ出かけている。又、敬老会や保育園や小学校の運動会、同業者の集いなどに出来るだけ参加出来るように支援している。	天気の良い日はほぼ毎日、車いすの利用者も一緒に旧国道沿いを散歩している。また、庭の畑の世話や戸外での食事の外気浴をしたり、週1～2回は車で他事業所のイベントや花見、買い物等に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方が多く、難しいので、本人の欲しい物や食べたい物等は、職員と一緒に買い物に行っているが、選んでいただいても、職員が渡したお金を払っていただく程度で、ほとんどはご家族が必要な物を持って来て下さる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいるご家族からは荷物が届いた時などに本人自ら電話をしたり、毎月の通信で利用者さんの様子を報告しているが、ご自分で手紙を書くように勧めても、書こうとされない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居室の窓は常に開放して居るので、玄関にご家族が来られると利用者さん自ら出迎えたり、玄関や居室には季節感を採り入れ居心地よく過ごして頂いている。	民家改修のため居間は手狭であるが、利用者同士で座る距離が近く、テレビを囲んで家庭的な雰囲気の中で過ごしている。職員の事務スペースも居間にあり、常に利用者を見守りながら会話ができています。利用者の得意な折り紙作品や、季節行事の飾り付けを行い、季節感と和みのある空間にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日は、ほとんど外に出て散歩をしたり庭でレクリエーションや昼食などを行い、その日によっては、食堂横のソファや椅子に座られたりと、好きな場所で過ごす事が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族と相談し、今まで使い慣れた家具や使い慣れた物を持って来て頂き、安心して生活出来るようにしている。	各居室には、馴染みの筆筒や寝具、好みの人形等が置かれ、それぞれの利用者が過ごしやすい居室作りをしている。事業所でペットボトルを利用した花活けを各居室に置いて花を飾り、和やかな雰囲気作りをしている。また、家族は衣替え等に協力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関は狭く段差が有るが、手すりを設置しており、別の出入り口はスロープにすることにより、車椅子を使用する利用者さんが安全に出入りできるように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				